2024年12月号

Community & Friend

有限会社アルファー
大阪府高槻市氷室町 4-13-3
吉田 清一郎

過去の月間通信は https://www.alphar-net.com/monthlymail.htm

平素は、弊社商品にお取り組み頂き、
まことに、ありがとうございます。
月間通信 12 月号をお送り致しました。
何卒、よろしくお願い致します。

画像は、この島のあちこちで見かける床几である。縁台というかもしれない。ほぼ捨て置かれているこれを見つけて、持ち主の爺さんに貰って来て、長年使って来た大事なものである。朽ち方から昭和からあったものと思われる。島での時間にも余裕が出て来て、特に春までは草刈りから解放されるので、気になっているところに手を加え始めた。この床几もそのひとつで、先日作った Firepit のそばで休憩をする為のテーブルにしようと修理した。

座るとお尻が抜けそうな天板を外し、骨組みをこのために購入した電気カンナとサンダーで磨き、そこに黒でペイントした。そういえば、Rolling Stones の Paint it black って難解な曲があったが、塗るのは簡単だった。そうそう、憧れていたガン式のペイントスプレーも買っておいたから。それで、ホームセンターに天板を買いに行った。確かこの 3 枚で 7800 円くらいした。いつの間にか、いろんな物が高くなったとは思うが、こんな節だらけの何でもない板まで高くなっていて、レジのおっちゃんも『こんなにするのか』と言っていた。

それはいいのだが、その板にサンダーをかけ、ツルツルにして、柿渋を何と 4 度も重ね塗りをした。なかなか思った色合いにならないからだが、これにはオマケがついて、その夜から左の目尻に違和感が出て、朝起きると目蓋が腫れていた。どうやら柿渋に負けたようだ。まあ、それはそれとして今週末にワックスを塗る予定。

そんな事をしている間にも世の中は進んで来た。進み方は分かっていたつもりだったが、思わぬ寄り道をしそうな雰囲気になっている。まさかと思っていた第三次世界大戦の様相を示して来た。『世界大戦』の定義は分からないが、中東で戦火が上がった。もはや勃発という言葉が使われるような戦争は無いと思っているので、これは意味を持った戦争という事になると、身近な朝鮮半島も可能性があり、台湾海峡だって怪しくなって来た。これらの地域でも、となると、先の言葉を使わざるを得ないのかも知れない。

資本主義経済は破壊と創造によって支えられているが、差し詰めウクライナは破壊を終えて、創造の段階に入るのかも知れない。あのゼレンスキーは、小豆島から戻りのフェリーのテレビで、『ウクライナを忘れないでほしい』と言っていたが、あれは更に武器を送ってほしいという意味なのか、それとも戦後復興への創造支援をしてほしいと言っているのか、分からない。いずれにしても、過ぎ去った道化者の哀愁が漂っていた。

兵器産業というカテゴリーのビジネスがある限り、常に破壊と創造は発生する。武器を持てば使ってみたいってな事ではない。使わされるように仕組まれている。つまりいつか書いたように、需要と供給はセットになっている。これは政治の話しではなく、経済の話しでしかない。Deep State とかは漫画の話しである。経済の在る所に政治があるという順序が正しい。車の製造ラインのように、武器の製造ラインを想像すれば、これらの推論は容易く、その為の政治でしかないようにも思う。平和じゃ儲からないから、戦争屋が暗躍するように。

この破壊と創造が、右手と左手のようにセットになっていて、役割分担でもするかのように、好きにされれば、やはり何かを言いたくなるし、言わなきゃならない。もし、仮にそうなら、誰かが儲ければ、その分誰かが損をするゼロサムのマネーゲームでもしてくれている方がいい。だって、その損は得を夢見て敗れただけの者だから、少なくとも罪の無いものが生命を落とす事は無い。

さて、今号が 2023 年 12 月ってことは、この書き物も丸 4 年やっていることになり、48 話目となる。まったく忙しいのか暇なのか分からない。自分は書いているだけだから良いのだが、読まされる方も大変だろうと思う。巷のメルマガのように、『配信停止はこちら』ってボタンも無い。だからと言って、辞めるつもりも無いが・・・・

相変わらず出張の飛行機待ちの時間に書いている。千歳空港で書いているが、いつものところ、2 階の中央の広場のエスカレーターを上がって、直ぐのところにあるパスタとか食べられる店がお気に入りで、此処は厭きれば、パソコンをテーブルに放置して直ぐ近くの喫煙所に行ける。『 ああ、この人、またね 』という顔はされるが、それは我慢すればいい。場がいいのか変に落ち着く。でも、今日は冷房が強い。強いのでさすがに首筋が冷たく、風邪を引きたくないので、搭乗口までやって来た。今度は暖房が強く、暑くて仕方が無い。

人参とミニトマトの農家をまわって来た。どちらも今年の暑さには『参った』の様子だった。自分も作物を育てているので、それはよく分かる。分かるし、いつもは気合で日中の草刈りをしていたが、さすがに先の夏は、気合ではどうにもならなかった。30 分もすれば動悸が激しくなって来て、それ以上無理をすれば、結局回復するのに長い時間を要してしまうので、早々に切り上げるような、暑いではなく熱いと書いた方が合っていた。

何の因果で八百屋をする事になったのか、もはや八百屋を遣っている印象も薄れて来て、仕事に違いないのだが、これ!! という事も無く、ただ人と会って、その時々に流れて来る気に順応して、口から出てくる言葉に身を任せているだけなのだが、よくよく注意して相手の顔を伺っていないと、相手にとっては迷惑千万という事にもなりかねない。確かよく引用する論語の **【七十にして心の欲する所に従へども、矩を踰えず】** とあり、その言葉に甘えているが、本当にそれで良いのかふと我に返った。

というのは前日に、ある Video を観ていて、そこに宗像大社の宮司が出て来た。無論有償の番組で、確か 3～4 時間程度で 1 万円近かった。最近本を読めなくなってしまっているので、目からの情報ではなく耳からの情報に頼っているのだろう。先月も文庫本を 300 冊ほど捨てたと書いたが、家の中を歩いても、あちこちに本が積まれている。興味が湧くとトコトン文字を追いかけていた。文字はいい、自分の理解を掻き立てられる。その理解から更に想像が膨らむ。想像とは仮説にすぎないので、それが正しいのかどうか、また文字を追いかける。こんな事をそんなに長い時間じゃない。ほんの 30 年ほどしていただけだ。つまり、本を読み始めたのは、本屋の息子だと言いながら、40 を過ぎてからという事になる。

で、宮司は何と言っていたのかと言うと、自分はその本屋を継がなかったが、宮司は宮司を継ぐ。『父親から、神に祈るとは』と教えられたそうだ。『宮司が神に私的な頼みごとをしていては始まらない』『神の前で誓いを立てるのだ』と話しをされたそうだ。『その誓いを達成できたと思えば、神に感謝を伝え』『不達に終われば、神に謝罪をする』 と。畏れ入ったが、『素敵な恋人があらわれますように』とお願いをしても構わないと思う。きっと神は自分自身が素敵になるようにアドバイスをくれるだろう。念願叶って素敵な恋が成就すれば、次の願い事迄神の存在は忘れていい。再び、或いは三度、神の存在を思い出す事があれば、それは自分が次のステップに飛躍しようとしている証しだと思う。そうして、2 匹目の泥鰌を期待して、柳の下に行くように、神の前に立てばいい。自分の都合で神の前に立ち、それを許さぬ神ならば、それは神ではないだろう。

斯く在れと思うすべての者が、立ち行くように配剤するのが神だろう。

有限会社アルファー：吉田清一郎